

完全保存版

著名人たちが明かす「私の名医」

# いい医者に

この人に手術をしてもらってよかった。この人に命を預けて本当によかった。この人に私は救われた。いい医者に巡り会えた人たちは幸せだ。その幸せを少しだけ分けてもらおう。

# 会えてよかった！

…… 前文省略 ……

## 知ったかぶりをしない

女優・真屋順子さん(69歳)も、そんな医者に会えた一人だ。

真屋さんは00年に脳出血で倒れ、東京都保健医療公社豊島病院で治療を受けたのち、舞台復帰を果たした。以来、同病院には家族全員が通うようになり、夫で俳

優の高津住男氏もがん治療を豊島病院で受けた(10年逝去)。だから真屋さんの腹部に動脈瘤が見つかった今年春も、豊島病院での治療を強く希望した。ところがこのとき、信頼する主治

医の飯田啓太医師(循環器内科)は次のように話した

という。

「豊島病院には血管外科がありませんので」といつて、帝京大学医学部附属病院で手術を受けるようすすめてきました。最初は母も私も他のあまりよく知らない病院での手術がすごく不安で抵抗したのですが、帝京の先生が月に何度か豊島病院に来て診察する日があったので、実際にお会いして話をうかがいました。すると、母が「この先生なら」

と納得したので、帝京病院のお世話になることにしたのです」(長男の高津健一郎さん)

飯田医師が紹介してくれたのは、下川智樹医師(心臓血管外科)。手術は無事成功し、術後1ヵ月で、真屋さんはもとの豊島病院に戻った。

真屋さんが語る。

「動脈瘤は5cmもあり、破裂したら即死だったそうです。下川先生にも、最初に動脈瘤を発見して別の病院

での手術をすすめてくださった飯田先生にも、感謝しています」

健一郎さんが補足する。

「今回はきちんと医師と話をすることの大切さを知りました。病院が治療するのではなく、医師が治療するのですから」

名医の紹介する医師が名医である可能性は高い。